



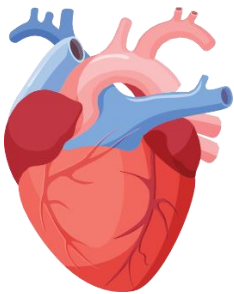
新型コロナウイルス感染症

心筋炎・心膜炎について

心筋炎は心臓の筋肉（心筋）の炎症です。心膜炎は心臓を包んでいる膜（心膜）の炎症です。

- このふたつの病気は感染症やその他の誘因に対する体の自然な反応により発症します。一般的な原因には、細菌やウイルスによる感染症や自己免疫疾患などの病気が挙げられます。新型コロナウイルス感染症やワクチン接種が原因でこのような心臓疾患を引き起こすこともあります。
- 症状には、胸の痛み、息切れ、動悸（心臓の動きを早く感じる、心臓がバクバクするような強い鼓動を感じる）、倦怠感、食欲不振などがあります。

心筋炎・心膜炎および新型コロナウイルスワクチンについて



- ごく稀ですが、Pfizer、Moderna、Novavaxの新型コロナウイルスワクチン接種後に心筋炎や心膜炎を発症することがあります。
- 通常、ワクチン接種を受けた数日後に発症する傾向があります。大抵の場合、服薬と休養によりすぐに快復しています。
- 10代や若者の男性に多い傾向があります。1回目と2回目のワクチンの接種間隔を8週間あけることでリスクが軽減されると言われています。

新型コロナワクチンによる心臓へのリスクは、新型コロナウイルス感染症によるリスクよりもはるかに低いことが確認されています。

- 新型コロナワクチンおよび新型コロナウイルス感染症はどちらも心筋炎や心膜炎のリスクを高める可能性があります。しかし、新型コロナウイルスに感染すると急性冠症候群、心臓発作（心筋梗塞）、心不全、心拍リズムの異常（不整脈）など、他の心臓病のリスクを高める可能性もあります。
- 詳細については、かかりつけ医に相談するか、こちらのCDCのウェブページ：[COVID-19ワクチン接種後の心筋炎・心膜炎について](#)をご覧ください。